

【写真特集…ハ工生の魅力を撮る】



写真の魅力

アドバンスクラフト

伊藤悠平さんに学ぶ



被写体（モデル）との心の距離が遠いとき、撮り手と被写体の距離が通っている写真と、通っていない写真では、まったく出来が違うものになる。素の表情を撮ることが大切で、簡単に撮れそうに思うが、それがなかなか難しい。何度も撮影に通って仲間の意識が芽生えてきたら、素の表情を撮るチャンスだ。

本校体育館で、バスケット部とバレーボール部の撮影をさせてもらった。バレーのネット間際に声をかけながら、ぐくくと近づいていく伊藤さん。被写体の魅力が最大限発揮される構図になるように立ち位置を取る大胆さに「さすがプロ」と驚いた。

またタイミングが重要なため、カメラを構えつつも両目を開けておくという伊藤さん。右目はファインダーを覗き、左目で全体を観察、プレー全体がどう動くかを予測しているそう。このプロの技、やってみるとなかなか難しい。今度カメラを構え

被写体との距離感を大切に

近江八幡市を拠点に活躍するプロカメラマン伊藤悠平さんから伝授してもらった『写真を撮る際の心構え』を3つ紹介しよう。

伊藤さんは「写真はある意味釣りと同じレベル」と考えている。いい写真が撮れるかどうかはその時々、の運による所もあるからだ。

カメラを構えて時を待ち、心が動いた瞬間にシャッターを切る。「きつとそこには『写真の神様』が居る」

そう信じて撮影をする。君も試してみよう。どうだろう。（喜）

『写真の神様』を信じる



被写体への配慮も必要だ。「撮らせてもらっている」ことを忘れてはいけない。また、コート内に入るときは必ず挨拶をする。その場の「空気感」を大切に、コミュニケーションをとりながら何枚もシャッターを切る。撮ってはやめているなどは思っていないで。

撮影させてもらっていることを忘れない

るとき、是非チャレンジしてみよう。



『三重県四日市コンビナート』
平井 喜一君 (3-4) 撮影



『ドクターイエロー』
今若さん (業務) 撮影

ふうたきゆん (2-4) 撮影
『玄宮園』



『JAL ボーイング 777』
福山 雄太君 (3-2) 撮影

ハ工写真館

魅力をとことん引き出す

いとう ゆうへい
伊藤 悠平さん
(株)アドバンスクラフト



笑顔が印象的で優しい伊藤さんは、三重県出身で現在は近江八幡市在住のプロカメラマン。大学生時代にアルバイトに専念しすぎて、4回生の時に一年分の単位が足りなくなり休学。学費を稼ぐために2001年に自衛隊に入隊。自衛隊では74式戦車の整備、操縦士、砲手をしてきたそう。しかし、自衛隊にハマってしまい大学を中退し

真は、『カッコいい戦車や兵器』ではなく『自衛隊員』だ。伊藤さん自身が自衛隊員だったからこそその『隊員との近い距離感』を活かした写真が、伊藤さんにしか撮れない自衛隊写真だ。



2004年に三等陸曹に昇任。昇任後は自分の時間が持てるようになり、趣味の写真撮るようになった。その時の先輩方に「これで飯が食えるぞ」と言われ2007年に依頼退職。その後京都で写真家のアシスタントをし半年後ブライダル会社に入社。入社後はスタジオ撮影や結婚式の撮影を学び、2010年に(株)アドバンスクラフトを設立された。独立後はウエディング撮影、商品写真やスポーツ撮影などを中心に日夜全国を飛び回り撮影をされている。

初めて会う隊員達も、伊藤さんが足繁く通いその懐に入ること、まるで仲間のように素の笑顔を見せてくれるようになるという。

2014年に写真家の魚住誠一先生が開催されたポートレート専科という人物写真限定の日本最大級写真展のオーディションに参加し、魚住誠一先生から「もっと自分らしい写真があるだろう」と言われたことが転機となる。『綺麗なモデルは撮影しても綺麗。ポートレート=綺麗な女性』という概念が吹き飛び『自分らしい、自分にしか撮れない写真』と奮起し、伊藤さんが以前所属していた自衛隊の写真撮るようになった。伊藤さんが撮る自衛隊の写

2015年のポートレート専科に自衛隊員の写真で応募し、合格。ポートレート写真展に展示された伊藤さんの自衛隊写真は、異彩を放っていたそう。また『月間カメラマン』(株)モーターマガジン社) 2016年1月号に伊藤さんの特集記事が掲載された。

伊藤さんは、夏休み中に来校していただき、講習とスポーツ写真の撮り方演習を我々新聞部員にしてくださいました。『月間カメラマン』の特集記事を見て、「すげー」と思っていた新聞部カメラマン平井(3-4)。怖い方かと思っていたのだが、とても優しい方で嬉しい驚きだった。と同時に被写体に愛情とも取れる気持ちを持って接していることに感動した。(喜)

ご好意で伊藤さん撮影の写真を、紹介はHPよりいただきました。



緑が生い茂る原爆ドーム

私自身は、中学生の頃に、中学生の頃に来たが、以前よりも強く戦争が無くなってほしいと



献花の絶えない平和祈念公園

戦後71年を迎えた今年の夏、広島は平和祈念資料館を訪ね、戦争の悲しさを改めて知る機会を得た。戦争は終わったというが、今なお傷を持ち続け、生きていく人々がそこにいた。被爆者の方々が高齢になり、実際に戦争体験を聞く事も少なくなりつつある。我々高校生世代が今聞けることを聞き、後世に伝えていく必要性を強く感じた。

米大統領オバマ氏来広の夏 折鶴に込める71年の想い

改めて思った。まだ訪れたことのない人は、是非広島に足を運んでほしい。原爆ドームや平和祈念公園、資料館は、私達に大切なことを教えてくれる。現在の平和は、戦後復興を支えた人たちが頑張った結果だ。現代を生きている日本人の高校生にとっては平和は当たり前のこと。しかし、世界中でテロが頻発し、いっどこで戦争が起ころうとも不思議ではない世界情勢であることも紛れもない事実だ。



↑オバマ大統領が作った折鶴

宮島で お手する鹿 に遭遇



見よ！これが鹿のお手だ!!

宮島へ入った一番目に付いたのが鹿。奈良かと思った。なんと500頭もいるらしい。公園の整備をしている方にお話を伺った。この方、写真屋さんで観光客の記念写真を撮影する傍ら、公園の掃除や鹿の世話をされている。鹿がトイレの紙を食べるので、戸が外側に開くようになっていってしまうよ！と教えてくれた。鹿をかわいがるうち、若い鹿に『お手』を教えたそう。『お手』を教えたことで、ビックリした。(梨)

リコが試食 もみじまんじゅう徹底比較

広島のお土産の定番『もみじ饅頭』食べ比べをして一番を選ぼうと意気込んで広島入りをした新聞部食べ物班(リコ)。
だが、もらったパンフレットで確認すると宮島だけで13店もある。各々特徴があり、違いを比較しながらと食べたが、2・3個でお腹がいっぱいに。あえなくギブアップしてしまった。
では紹介！まずは厳島神社近くの『岩村もみじ屋』
参道から外れたところにあるにもかかわらず、ひっきりなしにお客さんが来る。定番のこし餡を店先でいただく。あっさりしていて暑い夏でも美味しくいただける。忙しい中、代表取締役の岩村光芳さんに話を聞くことができた。一番売れる時期はお正月で1万個。話を聞いているそばから、どんどん饅頭が出来上がっていく。思わず「余ったら？」と聞いた。雨になると売上げが落ち、「余ったらすべて処分する」そうだ。



厳島神社参道を歩いていくと、変わり種がどんどん出てくる。『やまだ屋』は中身の餡がバラエティ豊かだ。チーズ、チョコレート、クリーム、抹茶、みかん、レモン、栗などなど。

他に『アイスもみじ饅頭』や『揚げもみじ饅頭』『生もみじ饅頭』もある。カメラマン平井は「揚げもみじ、うまっ」と大絶賛。加藤先生は『レモンアイスもみじ』に「アイスにする意味がわからん」と一言。

もみじ饅頭づくりの体験もすることができた。もみじの形をした鉄板で焼きあげる。生地がはみ出てしまい、なかなか思うように作れなかった。自分で焼いたものは生地が少し硬くて、売っている方が柔らかかった。それでも焼きたて、手作りは格別だった。

広島総文祭新聞部門実行委員によると一番人気は『にしき堂』。人それぞれ好みがあるなあと思いながら、私は『やまだ屋』のもみじ饅頭をお土産にした。加藤先生と直居先生は『にしき堂』の生もみじを大量買い。あなたも広島に行く際には、是非食べ比べて、お気に入りを見つけてくださいね。(梨)



平井君は、情報制御コース専門科目「プログラミング技術」の夏休み課題として、福山大学主催「第11回高校生CMコンテスト」写真部門に応募した。
新聞部カメラマンの平井君。10月23日の部活中、スマホを片手に突然「やっつたぜ！」と握りこぶしを作りつつ小さめに叫んだ。「何が起ったんや」とざわつく他の新聞部員。「金賞獲った！」の一言に、「見せて見せて」「すげー」「おめでとう」の歓声が沸いた。
応募した作品は、『びわこ花火大会』の一枚である。撮影場所はとある山の上。人気写真スポットなので場所は秘密らしい。昼の12時から場所取りをし、8時間粘った末に撮



↑笑顔の平井君

「雑誌のフォトコンテストにも今後チャレンジしたい」と語り、彼の新たな作品が楽しみだ。(楓)

平井喜一君(3-4) 金賞受賞 おめでとう! 「第11回高校生CMコンテスト」写真部門

平井君は、情報制御コース専門科目「プログラミング技術」の夏休み課題として、福山大学主催「第11回高校生CMコンテスト」写真部門に応募した。選ばれたのは、高校2年生の7月。賞をもらうのは初めてで、「嬉しい」と照れくさそうに笑った。「周りにセンスがいいと誉めてもらったが、僕は美術の成績も悪かったし、センスはないと思う。センスがなくても頑張れば、うまくなれるんだ」と自信がついた。
「雑誌のフォトコンテストにも今後チャレンジしたい」と語り、彼の新たな作品が楽しみだ。(楓)

【広島戦後71年特集…広島の魅力徹底取材】